

頑張れ  
東日本

# 初のボランティア活動で被災者にエール パラリンピック選手から



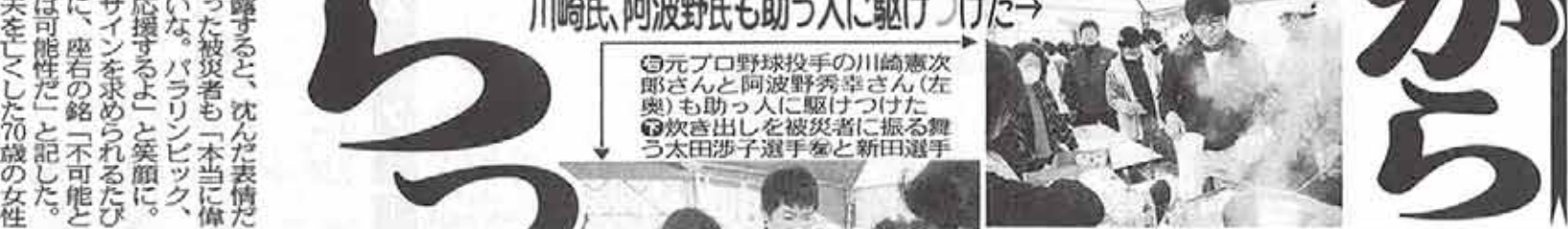
宮城県石巻市で炊き出し  
障害者のオリンピック「パラリンピック」のメダリストらが23日、悪天候の中、東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県石巻市の避難所で炊き出しを行い、温かいカレーや豚汁などを振る舞った。パラリンピアン（パラリンピック選手）らが集まってボランティア活動を行ったのは初のケース。さまざまなハンディキャップや不慮の出来事を持ち越えてきた選手たちの笑顔に、被災者らは「私も頑張らなければ」と勇気づけられたようだ。（丸山秀人）



パラリンピックの金メダルを披露して被災者と談笑する新田佳浩選手（左）と石巻市の石巻中学校で



川崎氏、阿波野氏も助っ人に駆けつけた→



元プロ野球投手の川崎恵次郎さんと阿波野秀幸さん（左奥）も助っ人に駆けつけた  
炊き出しを被災者に振る舞う太田渉子選手（左）と新田選手

障害者スポーツの国際大会。夏、冬季の大会があり、それぞれ4年に1度開催される。もう一つの（Parallel）と「オリンピック」から合成された。夏季大会は1960年にローマで、冬季大会は76年にスウェーデンで始まった。現在は、五輪開催都市はパラリンピックも実施するよう決められている。

時間も余っていたので参加した。本当は出場して頑張っている姿を届けたかった。被災者の方たちに何かできることがあったら協力したい」とも。

自転車競技の種目「ハンドサイクル」でパラリンピックを目指す水野明さん（35）は「貴重な体験をさせてもらったと思う。炊き出しの容器にふたがついているのがうれしいと喜ばれた。単なるふたさえもうれしいほどの生活。実際に来てみないとわからないな」と衝撃を感じた様子だった。

炊き出しを終えた後、新田選手は「皆さんの前向きな思いを感じた。スポーツ選手だからできることはあると思うので、6月12日の岩手のマラソン大会に出ようと思う。片腕だけで走っている姿を見てもらって、頑張れというメッセージを伝えたい」と意気込みを見せた。

太田選手も被災者に銀メダルを披露したり、ベインや耳かきなどを配ったりした。「会話をすると笑顔になってくれた。少しは励ませたのでは」と振り返った。また「震災で、4月のロシアでの世界選手権に日本は出場中止を決めたため、体力も

害者スポーツ選手6人。さらに、元プロ野球投手の川崎恵次郎さん（40）、阿波野秀幸さん（46）も助っ人として加わり、スタッフ総勢50人ほどで石巻入りした。

約1000人の被災者が暮らす石巻中学校と隣接する門脇中学校。この日はあいにく雨と風の悪天候だったが、石巻中の校舎外にテントを設営し、ナン付きの本格的なインドカレーや豚汁、炊き込みご飯など1800食、プリン、ドーナツなどのスイーツを提供した。

新田選手はこれに先立ち、講堂などを回り、被災者らと会話を交わした。左腕を事故で失った新田選手が金メダルを披露すると、沈んだ表情だった被災者も「本当に偉いな。パラリンピック、応援するよ」と笑顔に。サインを求められるたびに、座右の銘「不可能とは可能性だ」と記した。夫を失った70歳の女性は「障害があっても頑張り続ける姿を見たことで、とても力になります」と、しみじみ話した。

パラリンピック 障害者スポーツの国際大会。夏、冬季の大会があり、それぞれ4年に1度開催される。もう一つの（Parallel）と「オリンピック」から合成された。夏季大会は1960年にローマで、冬季大会は76年にスウェーデンで始まった。現在は、五輪開催都市はパラリンピックも実施するよう決められている。

時間も余っていたので参加した。本当は出場して頑張っている姿を届けたかった。被災者の方たちに何かできることがあったら協力したい」とも。

自転車競技の種目「ハンドサイクル」でパラリンピックを目指す水野明さん（35）は「貴重な体験をさせてもらったと思う。炊き出しの容器にふたがついているのがうれしいと喜ばれた。単なるふたさえもうれしいほどの生活。実際に来てみないとわからないな」と衝撃を感じた様子だった。

炊き出しを終えた後、新田選手は「皆さんの前向きな思いを感じた。スポーツ選手だからできることはあると思うので、6月12日の岩手のマラソン大会に出ようと思う。片腕だけで走っている姿を見てもらって、頑張れというメッセージを伝えたい」と意気込みを見せた。

太田選手も被災者に銀メダルを披露したり、ベインや耳かきなどを配ったりした。「会話をすると笑顔になってくれた。少しは励ませたのでは」と振り返った。また「震災で、4月のロシアでの世界選手権に日本は出場中止を決めたため、体力も

害者スポーツ選手6人。さらに、元プロ野球投手の川崎恵次郎さん（40）、阿波野秀幸さん（46）も助っ人として加わり、スタッフ総勢50人ほどで石巻入りした。

約1000人の被災者が暮らす石巻中学校と隣接する門脇中学校。この日はあいにく雨と風の悪天候だったが、石巻中の校舎外にテントを設営し、ナン付きの本格的なインドカレーや豚汁、炊き込みご飯など1800食、プリン、ドーナツなどのスイーツを提供した。

新田選手はこれに先立ち、講堂などを回り、被災者らと会話を交わした。左腕を事故で失った新田選手が金メダルを披露すると、沈んだ表情だった被災者も「本当に偉いな。パラリンピック、応援するよ」と笑顔に。サインを求められるたびに、座右の銘「不可能とは可能性だ」と記した。夫を失った70歳の女性は「障害があっても頑張り続ける姿を見たことで、とても力になります」と、しみじみ話した。

パラリンピック 障害者スポーツの国際大会。夏、冬季の大会があり、それぞれ4年に1度開催される。もう一つの（Parallel）と「オリンピック」から合成された。夏季大会は1960年にローマで、冬季大会は76年にスウェーデンで始まった。現在は、五輪開催都市はパラリンピックも実施するよう決められている。

時間も余っていたので参加した。本当は出場して頑張っている姿を届けたかった。被災者の方たちに何かできることがあったら協力したい」とも。

自転車競技の種目「ハンドサイクル」でパラリンピックを目指す水野明さん（35）は「貴重な体験をさせてもらったと思う。炊き出しの容器にふたがついているのがうれしいと喜ばれた。単なるふたさえもうれしいほどの生活。実際に来てみないとわからないな」と衝撃を感じた様子だった。

炊き出しを終えた後、新田選手は「皆さんの前向きな思いを感じた。スポーツ選手だからできることはあると思うので、6月12日の岩手のマラソン大会に出ようと思う。片腕だけで走っている姿を見てもらって、頑張れというメッセージを伝えたい」と意気込みを見せた。